



# 地本NEWS

2016年  
3月8日  
自治労北海道  
網走地方本部  
2016第7号

**2016国民春闘勝利!**  
要求・回答・交渉・受結・書面協定までの  
交渉サイクルを確立しよう!

## ☆全国町村職総決起集会☆

2月26日、東京都・日比谷公会堂で「自治労第37回全国町村職総決起集会」が開かれ、全国から47県本部494単組・840人、北海道から153人、網走地本から14単組16人が参加した。



主催者を代表し  
山木・全国町村評議長（北海道本部・遠軽町労連）は、国民春闘について「地方自治体で働く労働者にとっては、民間労組における春闘期の賃上げ受結結果がベースとなり、8月の人事院勧告につながることを認識して、年間の賃金闘争のスタートと位置づけて春闘をたたかう必要がある」と情勢を述べたうえで、「町村職では『交渉を持ってない、交渉の仕方が分からない、交渉と事務折衝の区別もあいまいに

## 「全国町村職総決起集会」



なっている』といった実態も報告されている。同じ思いに立って連帯し、組織全体で取り組みを進めてほしい」と強調した。また、政治闘争について「自治体は政治の影響を受ける職場。仕事においても地域住民に多くの意見を間近に聞いている。だからこそ、そうした意見を自治労という組織を通じながら国に訴えかけていくことができる。政治に関心を持って、私たちの行動が政治を変えようということを感じて取り組みを進めていく必要がある」と述べ、最後に「町村職の組織強化・拡大も重要な課題。集会で聞いたこと、感じたことを単組持ち帰り、前進的な取り組みを参考に、自分たちから実践することからはじめてほしい」とあいさつした。



自治労組織内「えさきたかし」参議院議員は「この間、地方公務員が50万人削減され続けるお金が地方から中央に吸い上げられてい

る。地方を切り捨てる安倍政権が『地方創生』などという言葉を使っている。ふざけるなという思いだ」と批判した。また、「地方をいじめる政治を何としても変えなければならぬ。流れを変えるために、たたかい、政治を変えるしかない。企業優先の政治から、働くものの政治に変えるため、地方から炎のような反対の狼煙を上げるのが7月の参院選のたたかいだ。市場原理主義、戦争に突き進む自公政権に対抗できるような野党共闘を必ずつくる。その中心を自治労が担い、その代表として私が国会で奮闘する」と決意を述べた。最後に「小さな政府論から脱却して、『人を増せ、賃金を上げろ、公共サービスを拡充しろ』、という、そんな当たり前の運動が実現するような政治に変えていこ

う」とあいさつした。  
その後、自治労本部から春闘方針、臨時・非常勤等職員の組織化について他単組の取り組みを紹介しながら提起した。

集会終了後は「地方交付税の削減反対」「臨時・非常勤等職員の処遇改善」「町村職員の賃金格差是正」などを訴え、日比谷公園から国会周辺をデモ行進し、衆議院や参議院別院の前では、協力国会議員に請願行動を実施。同日夕方には、国会見学と参議院



会館の北海道選挙区の『徳永エリ』、自治労組織内『あいはらくみこ』『えさきたかし』の事務所を順に訪問し意見交換を行った。『えさきたかし』事務所では、この間取り組んだ「えさきたかし応援メッセージ」を直接、参加者から手渡した。

### ☆参加者からの声☆ (その1)

【喜多見健二さん・置戸町職労青年女性部】今回、全国町村職総決起集会に初めて参加しました。日比谷公会堂では、公務員賃金の底上げや



臨時・非常勤等職員の均等・均衡に向けた取組等春闘勝利に向けた仲間たちの仲間たちの断固たる決意を共に、強固な組織として闘っていくこと

を改めて確認することができました。

【田宮悠佑さん・佐呂間町職労青年婦人部】今回2泊3日で集会に参加させて頂き、大変勉強になることばかりでした。特に、参加者の皆さんで東京の街をデモ行進したことがとても印象に残っています。また、国会議事堂を見学できたり、参議院議員の方とお話できて、町村が抱えている問題などを直接話せて良かったです。

【渡辺 豪さん・大空町職特別執行委員】我々の参議院議員と直接お話しする機会があり、日頃体験でないことが体験できて、とても有意義でした。全国の仲間と想いが共有できる集会でした。単組運動は、人数の多い少ないではなく、やるやらないが非常に大きいと感じたことを、単組の仲間と共有し、今後の運動に活かしていきたい。



【安達直哉さん・小清水町職特別執行委員】全国の仲間と共に首相官邸・国会議事堂を横目にデモ行進するたびに「政治闘争の重要性」を強く

感じさせられます。7月参院選、圧倒的勝利で「えさきたかし」を決め、我々の存在感をあらためて世に知らしめる好機にしましょう！

【森 智基・網走地方本部副執行委員長】あらためて公務職場は政治に左右されやすいということが確認できた。この春闘からしっかりと賃金や労働条件改善を訴える必要があると思えた。一方で組織も疲弊している。臨時職員等の組織化に向けて先進事例を参考に取り組みたい。私たちが働くための環境を守るには政治参加は必須。この夏「えさきたかし」の再選をめざそう。(※参加者からの声は連続掲載します)